

早期からのボツリヌス治療の有効性 ー下肢装具が不要になった群に着目してー

¹桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部

²桔梗ヶ原病院 高次脳機能リハビリテーションセンター

島本 祐輔¹ 原寛美²

【目的】

ボツリヌス治療により内反尖足が改善し、下肢装具が不要となる症例を経験する機会がある。

その中でもより早期にボツリヌス治療を行うことで高い機能の獲得と下肢装具の必要なくなった症例を経験したため、早期からのボツリヌス治療により下肢装具不要となった群の傾向を後方視的に検証した。

【対象と方法】

平成 27 年度の期間に下肢に対してボツリヌス治療を行った患者延べ 81 名（FIM5 点以下・装具不使用者を除く）のうち装具必要群（42 名 発症から平均 2011 日）、装具が不要になった群（35 名 発症から平均 1941 日）、また装具が不要かつ早期施注群*発症より 1 年以内（4 名 発症から平均 406 日、発症から初回のボツリヌス治療の期間 221 日）の 3 群の比較を後方視的に検証した。

施注前と退院時の Modified Ashworth scale（MAS）、足関節背屈角度、10m 歩行スピード、Timed Up and Go Test（TUG）を評価項目とした。

【結果】

ボツリヌス治療+集中理学療法により 3 群全てにおいて、MAS、足関節背屈角度、10m 歩行スピード、TUG の改善を認めた。

早期ボツリヌス治療により装具が不要となった群の特性として、MAS、足関節背屈角度とも制限をきたす前であり痙縮が重症化する前にボツリヌス治療を行っていること、また他の群と比較して MAS、足関節背屈角度とも正常により近い機能を獲得した。

【考察】

深部腱反射の亢進・歩行異常パターンの出現・MAS1～1+レベルを Warning sign と捉え痙縮治療を早期に行うことで、高い機能の獲得と装具を不要とするより高い歩行能力の獲得につながることを示唆された。

可塑性が引き出される 1st stage～2nd stage に機能回復の阻害因子である痙縮を最小限に抑えることは、治療・訓練をスムーズに行える事からも早期ボツリヌス治療は有効であると考えられる。